



<発表資料>

2020年4月16日 20045

花王、2019年末時点での 国内購入電力の再生可能エネルギー比率 50%を達成

花王は、地球温暖化の原因となる温室効果ガス排出量の削減を積極的に進めており、グローバル全拠点の温室効果ガス排出量を2030年までに22%削減(2017年比)することを目標^{※1}にしています。目標達成のための取り組みとして、自家消費用太陽光発電設備の導入と、購入電力の再生可能エネルギー化を推進してきました。

購入電力については、まずは2025年までに日本、そして2030年までにはグローバル全体において、すべてを再生可能エネルギーにすることを目標に掲げて取り組みを進めています。2019年末時点では購入電力の再生可能エネルギーの比率が、日本で50%、グローバル全体で31%に達しました^{※2}。また、日本の4工場^{※3}、欧州の全9工場^{※4}、アメリカの1工場^{※5}の計14工場において、購入電力の再生可能エネルギー比率100%を達成しています。

花王は今後も、温室効果ガス排出量削減の取り組みを積極的に推進していきます。

※1 Science Based Targets イニシアチブの認証済み

※2 2018年12月末時点では日本が32%、グローバル全体では19%

※3 愛媛工場、川崎工場、豊橋工場、富士工場

※4 イギリスの1工場(ビショップスストードフォート)、スペインの6工場(バルベラ、オレッサ、モレ、ルビ、マドリッド、バレンシア)、ドイツの2工場(ダルムシュタット、エメリッヒ)

※5 シンシナティ



2019年7月から購入電力の再生エネルギー比率を100%とした豊橋工場(左)、富士工場(右)